

JET からの手紙

奈良県での一期一会

奈良県国際交流員

呉 春蘭 (ゴ シュンラン)

日本の茶道には、「一期一会」という言葉があります。曰く、「一生に一度だけの機会」という意味です。JETプログラムを通じて、奈良県国際課の国際交流員（以下「CIR」）として赴任して以来、「一期一会」の貴重な出会いが、数え切れない程たくさんありました。

私は中国の大学で日本語を専攻し、その後は、中国の企業で通訳翻訳の仕事をしていました。日本にも仕事や旅行で何度か訪れていくうちに、日本文化の雰囲気の色濃く残る「古都」が好きになり、日本で仕事をしたいという思いを持つようになったので、JETプログラムに参加しました。それから、私と奈良県との縁ができました。

奈良県国際課のCIRとしての私の業務内容は、通訳翻訳業務、奈良県と友好提携先地方政府等との交流事業の支援、イベントの企画・実施、学校訪問、情報誌の作成など幅広いものとなっています。

通訳翻訳

中国との交流事業に関する通訳翻訳業務もありますが、観光に関する通訳翻訳業務もたくさんあります。奈良は世界でも有名な観光地であり、中国人観光客も多く訪れています。県が主催するイベントも多く、自分がイベントのために翻訳したパンフレットが観光客の役に立っているのを見ると、自分が奈良県のPRに貢献することができていると感じます。

また、観光情報に関する翻訳では、私自身も奈良の歴史、文化、仏教美術、名勝などについて知ることができ、奈良県についての理解も深まります。

友好提携先地方政府等との交流

奈良県は中国陝西省と友好提携を締結しており、県内

在住の青年らを陝西省や奈良との縁の深い鑑真和上の故郷である揚州市などに派遣しています。私もその派遣に同行し、現地の政府機関を訪問する際に通訳を担当します。また、緊張している学生がリラックスできるように場をとりもちます。現地の大学生との交流やホームステイも実施するため、派遣前には、職員の方と一緒に関係各所に調整を行うことは大変ですが、自分が両国青年間の架け橋となることができた時には、非常に感慨深いものがあります。



陝西省のホームステイ家族と一緒に



揚州市政府機関での集合写真（前列右から2人目が筆者）

学校訪問・派遣事業

小学校などを訪問して、中国の紹介をする仕事もあります。中国は日本からも近く、訪問先の子供たちの興味や関心も強いと感じています。情報だけならインターネットでも調べられますが、人と人との交流ができ、相互理解ができるのは、訪問して自国を紹介できる機会があるからこそだと思います。

イベント企画・実施

県民の方と交流するイベントを JET 青年が企画・実施しています。会場となる場所の下見、企画書の作成、広報などをほかの CIR や ALT と協力して行います。

イベントの企画・実施には、大変な労力と時間を要しますが、参加者から「ぜひ、また参加したい」「楽しかった」との声を聞くと、次のイベントもがんばろうと思えます。このような「草の根」の交流こそ、国際交流を推進する有意義な活動ではないかと思えます。



第 62 回奈良県 JETNet イベント

情報誌「奈の良」の作成

「奈の良」とは、奈良県国際課に勤務する CIR が、外国人の視点から、魅力を感じる奈良県内の施設、行事、文化などについて自ら取材を行い、記事にして、外国語（英・中（簡・繁）・韓・仏）と日本語で刊行する情報誌です。一連の作業



情報誌「奈の良」第 8 号

を CIR が行うため、独特の観点から奈良県を捉えていると思います。まだ、読まれていない方は、奈良県国際課の HP に掲載されていますので、ぜひ一読してみてください。

「縁」

中国の諺に「縁があれば千里」という言葉があります。JET プログラムに参加できるのも、奈良県との出会いも「縁」があるお陰だと思います。

もちろん、日本での仕事や生活は大変ですが、この経験を乗り越えた先には、成長した自分がいるのです。私は、多くの人々の支えによって、自分の視野が広がり成長しているのを感じています。JET プログラムの参加期間は限られていますが、これからも「一期一会」の精神を大事にして、少しでも国際交流の架け橋として奈良県に貢献していきたいと思えます。

皆さんも、一緒に頑張りましょう。（一起加油吧！）



室生寺（奈良県宇陀市：筆者撮影）

プロフィール



呉 春蘭（ゴ シュンラン）

中国湖北省出身。北京外国語大学日本語学科卒業。2017 年春より、奈良県国際課で CIR として勤務。休日には、奈良国立博物館の「解説ボランティア」をしつつ、古都の風景や寺社の写真を撮影。撮影した作品が「第 80 回京都サロン」に選ばれる。自分の仕事や撮影作品を通して、国際交流の架け橋になるのが夢。

JET LETTER

我在奈良县的“一期一会”

吴春兰

日本茶道有“一期一会”的说法，即“一生唯一一次的相遇”。通过 JET 国际交流项目，我担任奈良县国际课的国际交流员（以下简称 CIR）以来，经历了数不清的、弥足宝贵的“一期一会”。

我经过在中国的大学日语专业的学习之后，在国内从事翻译及口译工作。多次因公或个人旅游来到日本后，我深深被传承至今的日本传统文化、以及浓郁的“古都”气氛所吸引，萌生了赴日工作的愿望，于是报名参加了 JET 国际交流项目。自此我与奈良结下了不解之缘。

作为奈良县国际课的 CIR，我的业务内容主要是翻译及口译、协助奈良县与中国友好城市地方政府间的交流项目、本县各项国际交流活动的策划及实施、访问本县诸多学校、制作资讯杂志等繁杂业务。

翻译及口译

除了与中国友好交流项目相关的翻译及口译任务之外，还有大量与旅游相关的翻译及口译任务。奈良作为世界闻名的旅游胜地，接待人数众多的来自中国的游客。奈良县会经常主办丰富多彩的各种活动，看到经己之手翻译的各种旅游手册为华人游客提供到帮助，由衷地感受到自己在为奈良县的旅游宣传尽着微薄之力，从而倍感欣慰。

而且，通过翻译及口译旅游方面资料，我自己也增进了对古都奈良的历史、文化、佛教美术、名胜古迹等知识的了解，加深了对奈良县的整体认识和理解。

出访中国友好城市与地方政府间交流

奈良县与中国陕西省缔结成为友好城市之后，本县国际课开展了一个日中青年友好交流项目，即携居住于奈良县内的年轻人出访陕西省及扬州市。其中扬州市乃鉴真高僧之故里、与奈良县有着十分深厚的渊源。出访过程中，我始终与访中团成员同行、并承担拜访当地政府机关时的口译任务。途中我会想方设法使略感紧张的本县大学生们尽量放松下来。我们这个项目安排了该县大学生与当地中国大学生进行丰富的文化交流活动，并且还安排了她们住宿到西安普通市民家中体验生活的内容，所以访中前需要协助本县职员共同联络、协调不同活动内容的各个接待方。事务繁多、十分忙碌。然而，当看到自己能为两国年轻人的顺畅交流而搭建桥梁、穿针引线地发挥作用时，又深感到如此有意义的事业而忙碌是非常值得的，于是倍添力量。

访问各学校及相关机构

我还有一项工作内容是访问本县小、中、高中学校，以及短期学院、聋哑人学校、本县教育研究所等，向大家介绍中国的情况。中国与日本一衣带水，日本的孩子们对近邻中国十

分关注、饶有兴趣。当今社会从网上就可以轻易得到许多关于中国的介绍及资讯，但正因为我有这种直接访问学校、介绍自己祖国的机会，能够通过面对面的互动与交流、更加促进双方的相互了解及理解。

策划及组织各项活动

奈良县 JETNet 青年定期策划并组织外国青年与奈良当地县民展开各项丰富多彩的国际交流活动。我和其他国家的 CIR 及 ALT 一起积极筹备。比如，提前几个月开始考察活动场所、策划活动内容、登录县厅官网发布活动募集公告、制作海报宣传等等。

筹备并实施一项外国青年与奈良当地县民共同参与的交流活动，要投入大量的时间和精力。但在活动结束之际，欣闻参加者反馈：“我下次还想参加！”“太棒了！”之际，不由得暗暗决心为下次的国际交流活动成功举办而继续努力。正是通过这种植根于“草根”间的国际交流活动，日积月累，成为一项促进民间国际交流的、富有深刻意义及影响的活动。

制作资讯杂志《奈之良》

《奈之良》是从外国人的视角，旨在将我们眼中的奈良魅力展现给本县县民及海外游客。作者为奈良县国际课的各国 CIR 们。杂志同时发行日语版及外文版（英 / 中文（简体字 / 繁体字）韩 / 法）。我们自行采访、撰写、编辑、印刷、运送杂志。如果您还未曾阅读过此杂志，请务必点击奈良县国际课的官网一阅为快。

“缘份”

中国有句谚语说得好：“有缘千里来相会”。我能参加 JET 国际交流项目是出于“缘份”，与奈良县的不期而遇亦是源自“缘份”。

适应日本的工作和生活，无疑会有很多艰辛，但是，战胜困难、成就自我，正是个人涅槃成长的过程。我正是源于大家的支持和厚爱，才能不断地开拓视野、得以历练。参与 JET 国际交流项目的工作时限是固定而短暂的，我今后也会珍惜“一期一会”的缘份，继续为奈良县、为两国的国际交流活动尽己绵薄之力。

大家一起加油吧！

个人简介 ——

出生于中国湖北省。毕业于北京外国语大学。自 2017 年春赴任奈良县国际课担任中国 CIR。担任奈良国立博物馆义务解说员，爱好摄影，尤爱古都风景及寺庙题材。

摄影作品被遴选参展于“第 80 届京都沙龙”活动。我的梦想是通过自己的工作及摄影作品，一直成为国际交流的桥梁。

中国語